

一般社団法人 日本建設機械工業会 会長記者会見

— 建設機械需要予測(2022年2月公表分)—

2022年2月24日

会長 数見保暢

●記者会見次第

- | | | |
|---------|------------------|-------------|
| 1. 開 会 | : 浦島広報部会長 | 11:00 |
| 2. 報 告 | : 数見会長 | 11:05~11:30 |
| | ・建設機械需要予測(出荷ベース) | |
| 3. 質疑応答 | | 11:30~11:55 |
| 4. 閉 会 | : 浦島広報部会長 | 11:55 |

【需要予測の概要】



- ・毎年度2月、8月に公表。今回で61回目。
- ・調査対象: 建機工正会員である建設機械メーカー62社
- ・調査時点: 2022年1月
- ・調査対象期間: 2021年度下期と2022年度上下期の3期
- ・対象機種: 9機種(トラクタ、油圧ショベル、ミニショベル、建設用クレーン、道路機械、コンクリート機械、基礎機械、油圧ブレーカ・油圧圧砕機、その他建設機械)

(次回は2022年8月25日(木)に公表予定)

1. 2021、22年度の需要予測

(1) 出荷金額ベース

- ① 年度比較
- ② 半期比較
- ③ 機種別推移(補給部品を含む)
- ④ 国内・輸出別推移

(2) 台数ベース

- ① 油圧ショベル
- ② ミニショベル

【参考数値】仕向先出荷金額

- ① 構成比推移: 2007~2020年
- ② 構成比推移: 2021年4-12月
- ③ 2007年度を100とする指数の推移

2. 会員の見方

(1) 国内需要予測の背景

- ① 公共投資
- ② 民間設備投資
- ③ 住宅投資

(2) 海外需要予測の背景

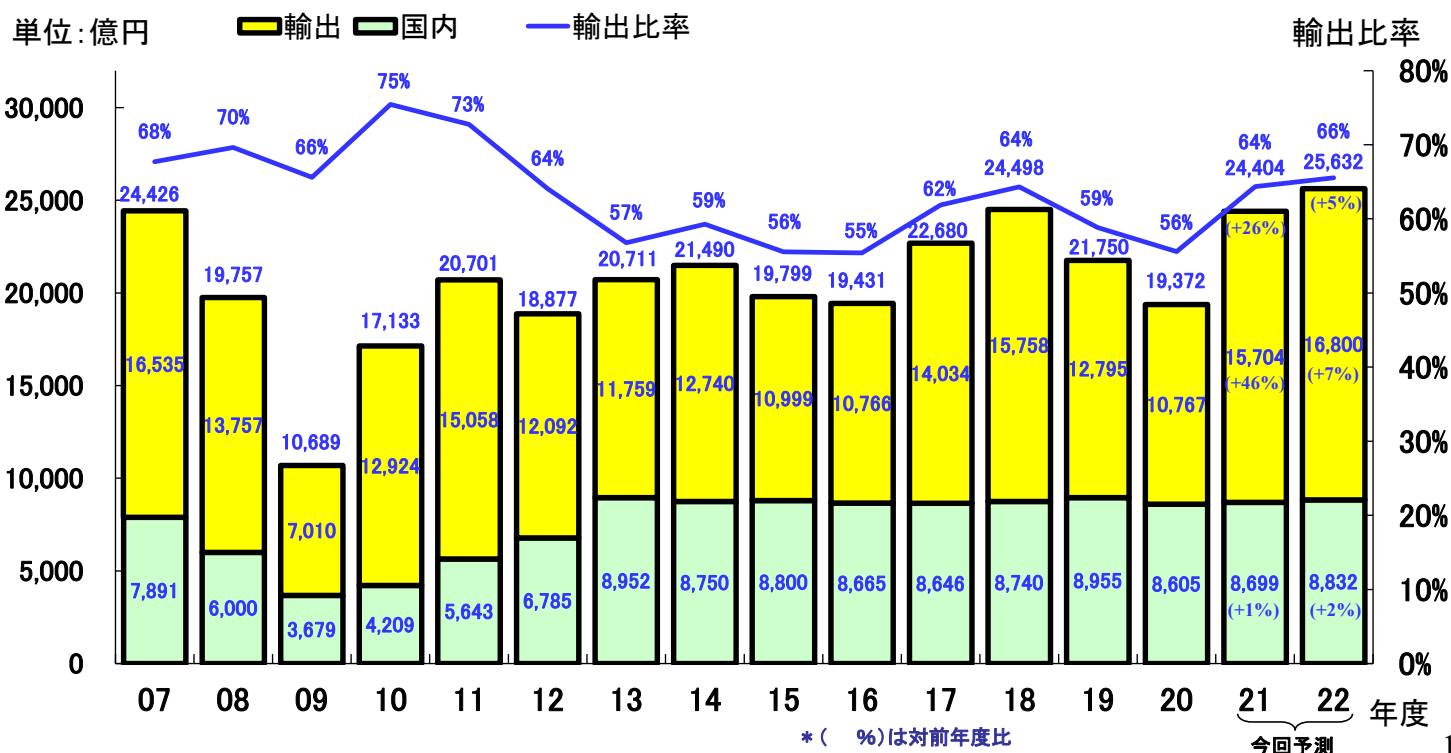
- ① 北米市場の動向
- ② 欧州市場の動向
- ③ 中国を除くアジア市場動向
(含むオセアニア)
- ④ 中国市場の動向

(3) コロナが再拡大した場合の影響 及びその度合い

1. 2021、22年度の需要予測(1) 出荷金額ベース

① 年度比較

・21年度は前年度の新型コロナウイルス感染拡大影響による需要減から大きく回復。
 ・22年度は国内微増、輸出は堅調に推移し、これまでピークの2018年度を超える金額と予測。

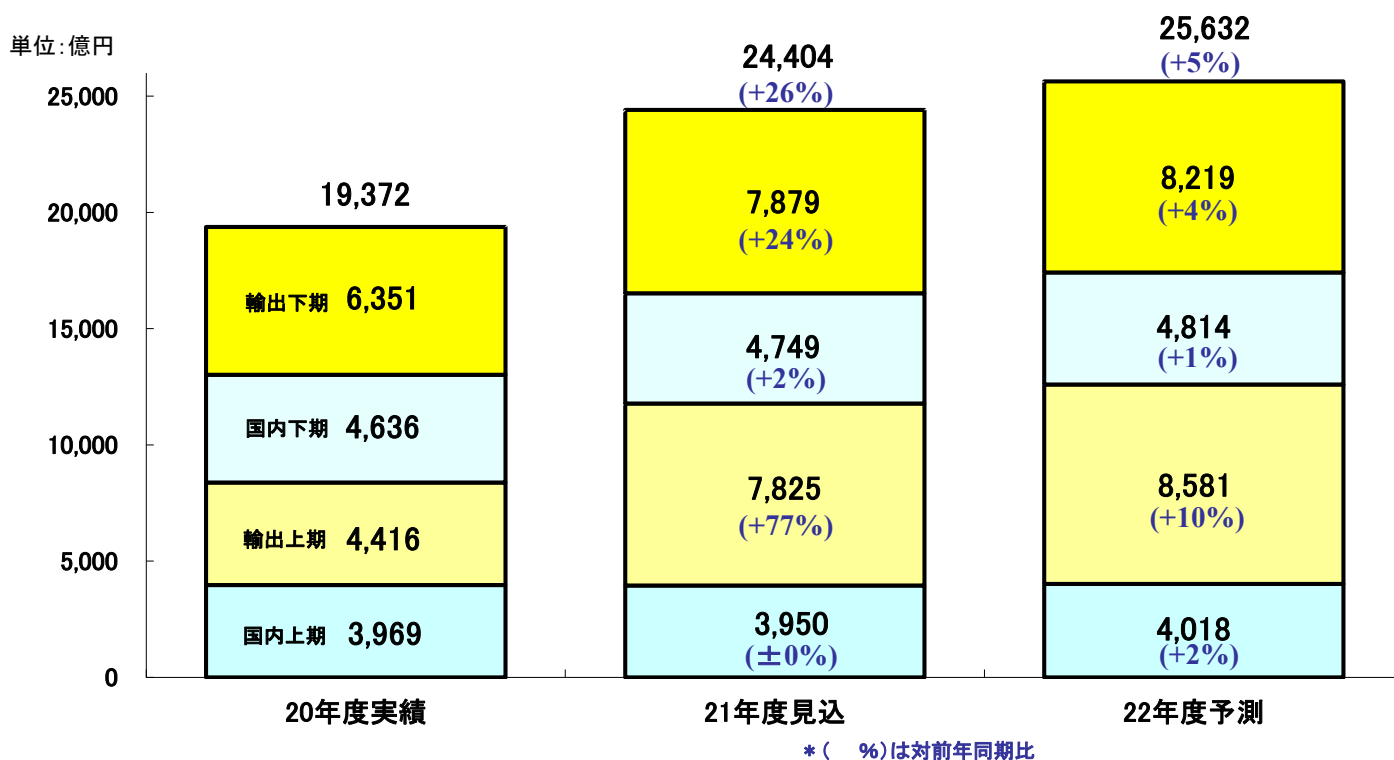


1. 2021、22年度の需要予測(1)出荷金額ベース



②半期比較

- ・21年度は国内・輸出ともに増加。特に輸出は上期・下期とも大幅な伸び。
- ・22年度は国内微増、輸出は堅調。



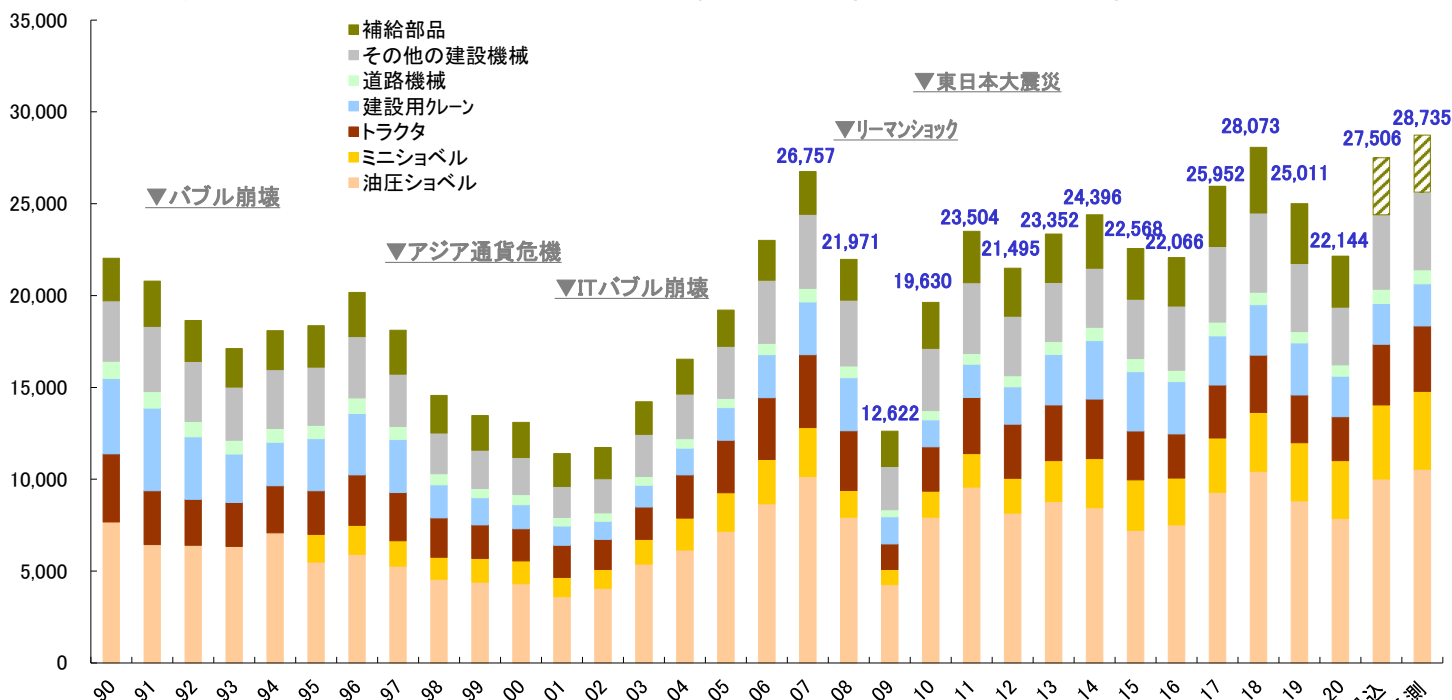
1. 2021、22年度の需要予測(1)出荷金額ベース



③機種別推移(補給部品を含む)

○21年度は、基礎機械(△6%)を除き8機種全てが増加し、全体で前年度比26%の増加を見込む。

○22年度は道路機械(△1%)を除き8機種全てが増加し、同5%の増加が予測される。



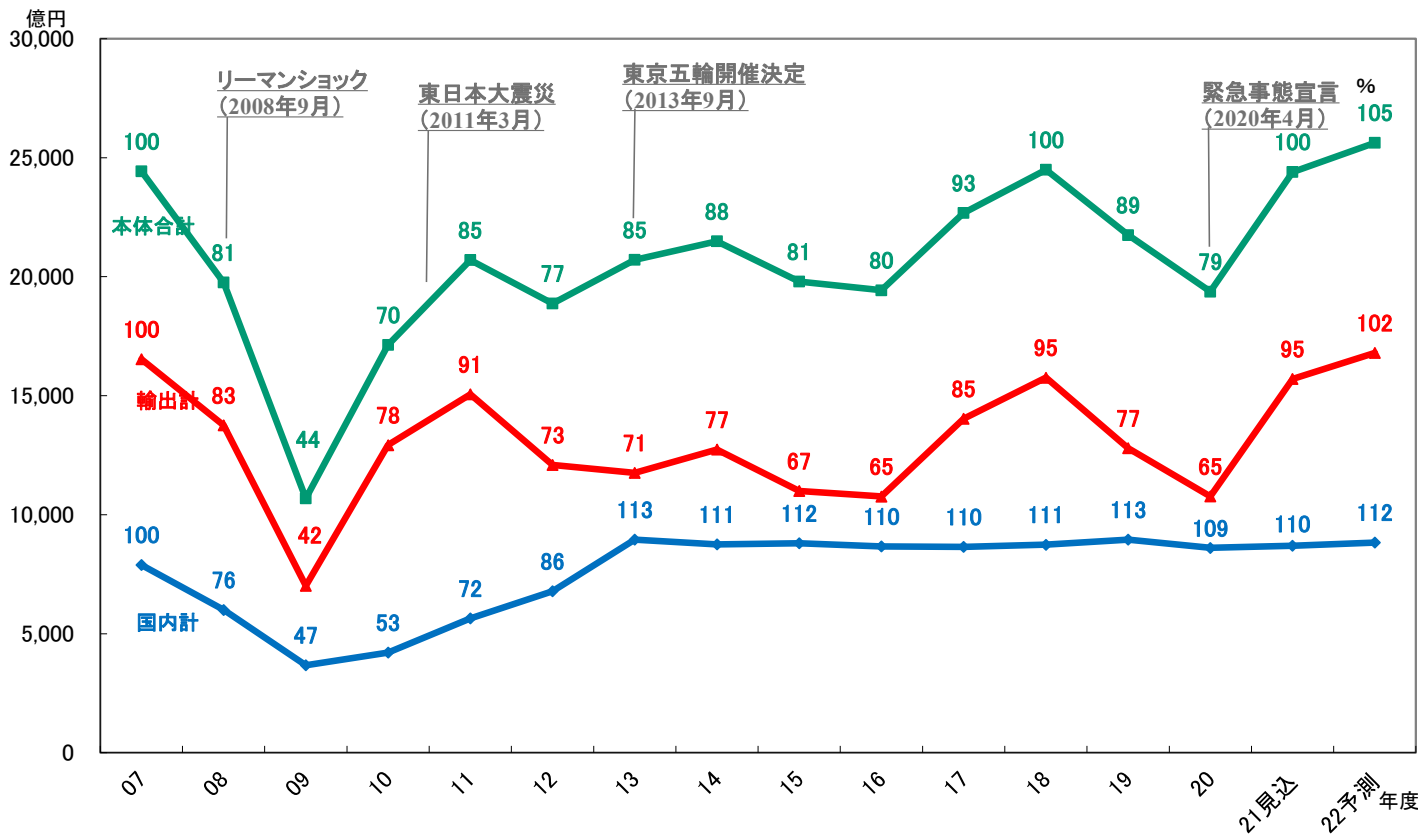
* 9機種(油圧ショベル、ミニショベル、トラクタ、建設用クレーン、道路機械、コンクリート機械、基礎機械、油圧ブレード圧碎機、その他建設機械)の出荷金額ベース。ただし、補給部品の21年度見込および22年度予測については、過去5年間の平均額(3,103億円)とする。
出典: 建機工自主統計

1. 2021、22年度の需要予測(1)出荷金額ベース



④国内・輸出別推移

21、22年度とも、国内は引き続き堅調、輸出は大幅に改善



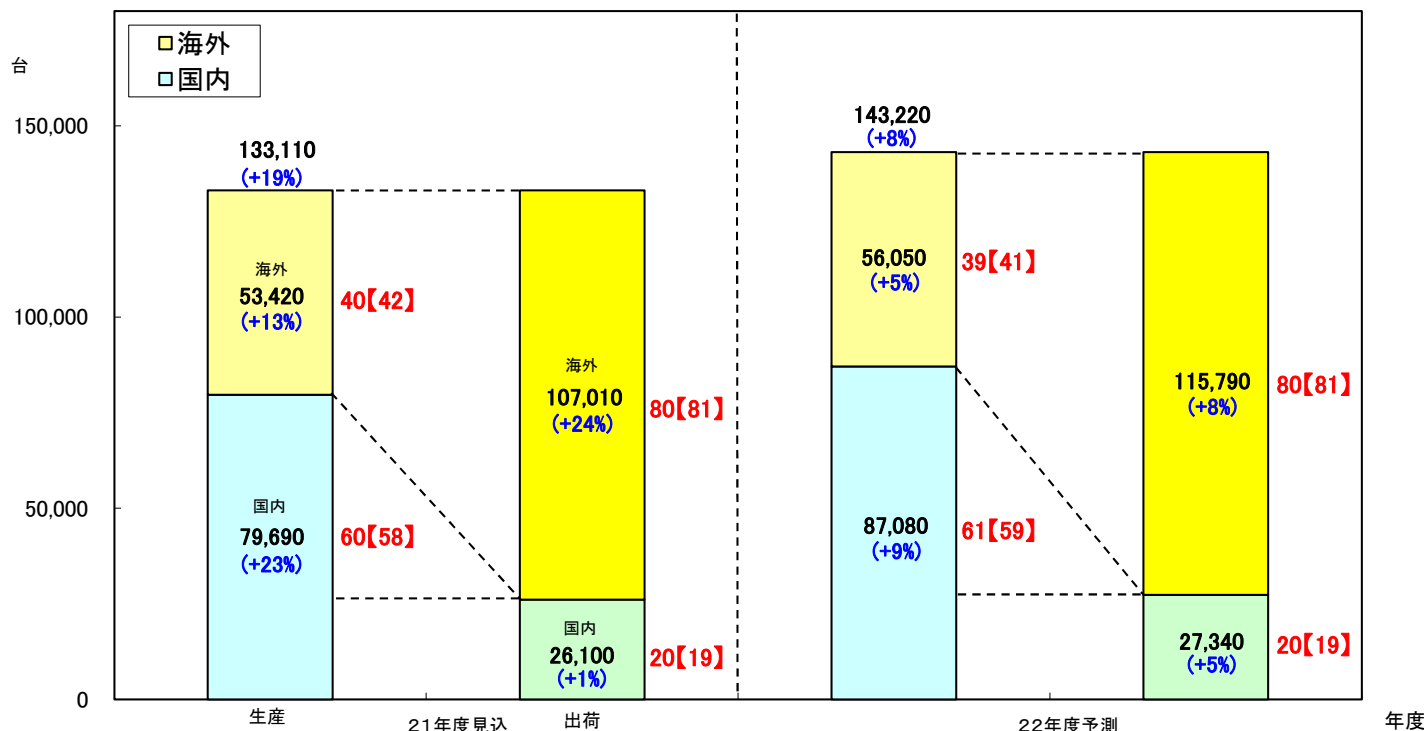
* 9機種 (油圧ショベル、ミニショベル、トラクタ、建設用クレーン、道路機械、コンクリート機械、基礎機械、油圧ブレーカ圧砕機、その他建設機械) の指数 (2007年出荷金額を100とする)
出典: 建機工自主統計

1. 2021、22年度の需要予測(2)台数ベース



①油圧ショベル

21年度は、国内を中心に生産が増加、出荷は海外が好調。
22年度は、更に国内生産が増加。出荷は国内・海外ともに堅調。



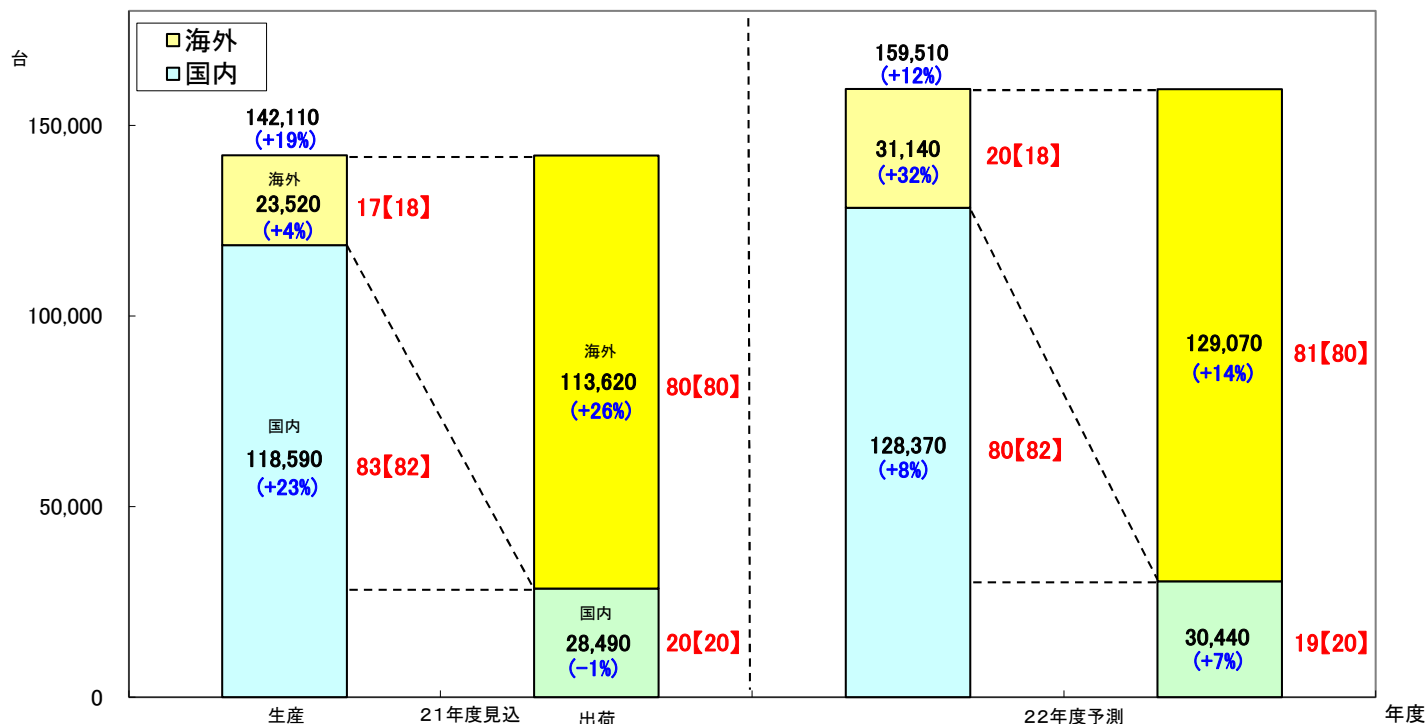
* 油圧ショベルの生産台数ベース
* 赤字は国内海外比率。【 】内は、8月時点の見通し値 ()内は、前年度比。
出典: 建機工調べ

1. 2021、22年度の需要予測(2)台数ベース



②ミニショベル

21年度は、国内を中心に生産が増加、出荷は海外が好調。
 22年度は、国内・海外ともに生産が増加。出荷は国内・海外ともに堅調。



* ミニショベルの生産台数ベース
 * 赤字は国内海外比率。【】内は、8月時点の見通し値 ()内は、前年度比。
 出典: 建機工調べ

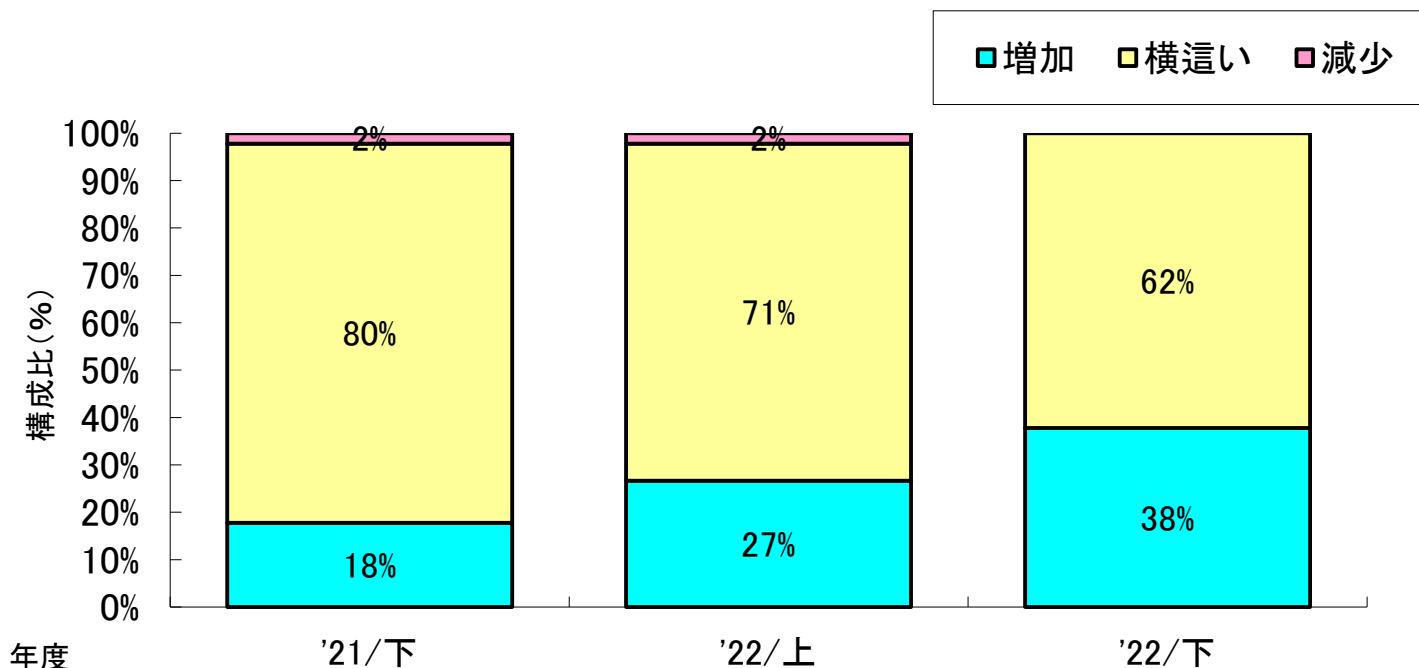
2. 会員の見方



(1)国内需要予測の背景

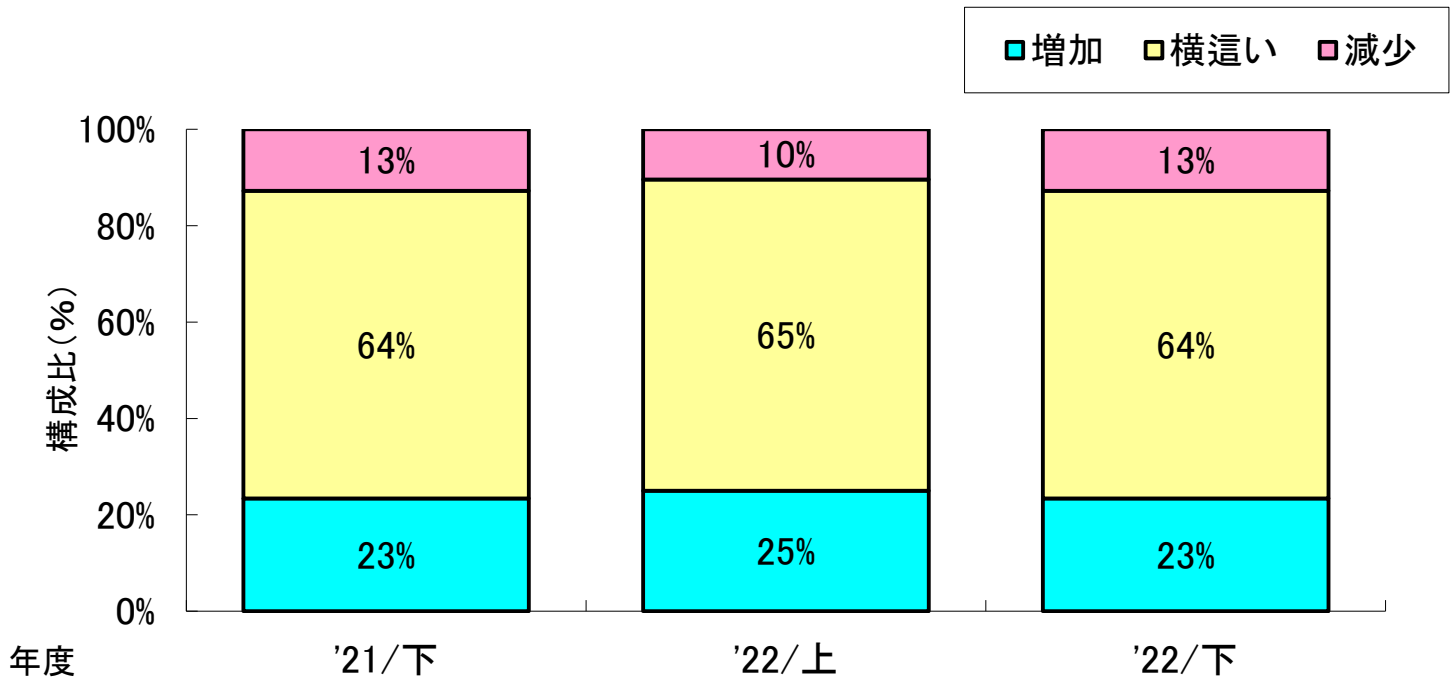
①公共投資

21年度に比べ、22年度は増加の見方が大きく増える。



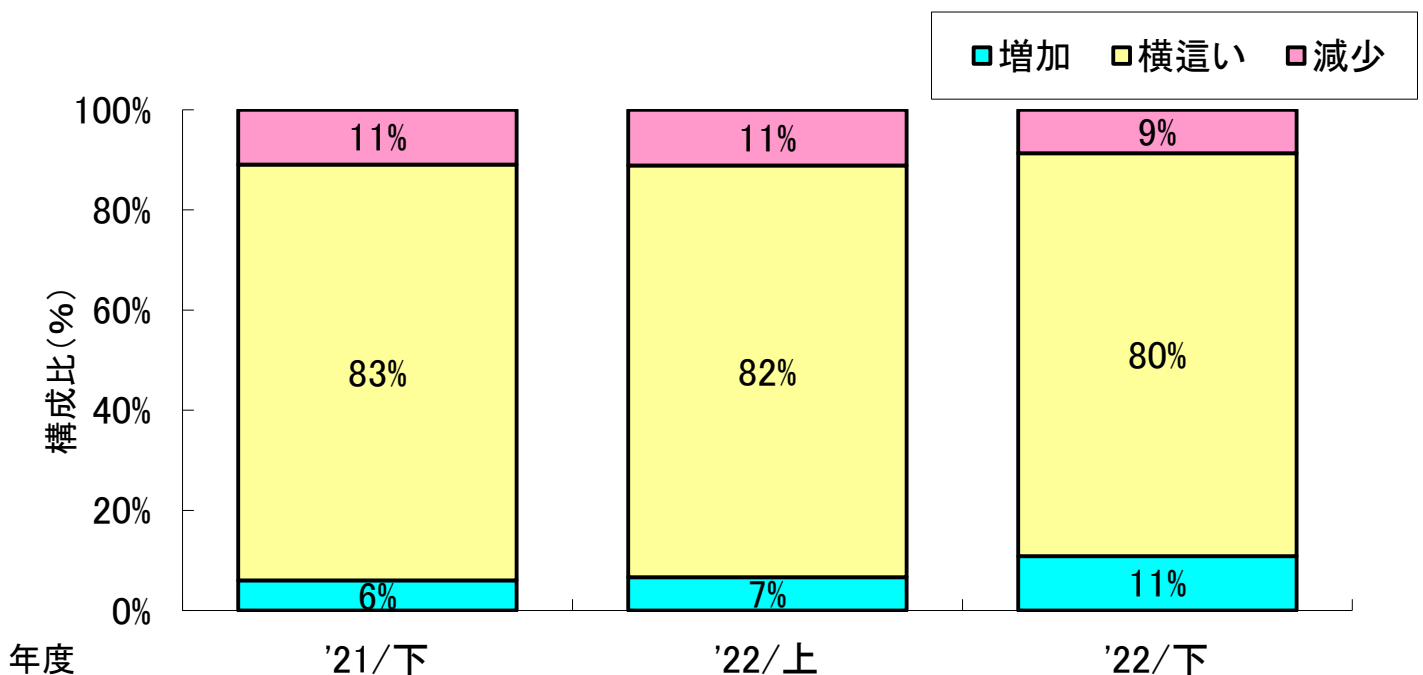
② 民間設備投資

21年度、22年度を通じて横這いが大勢を占める。



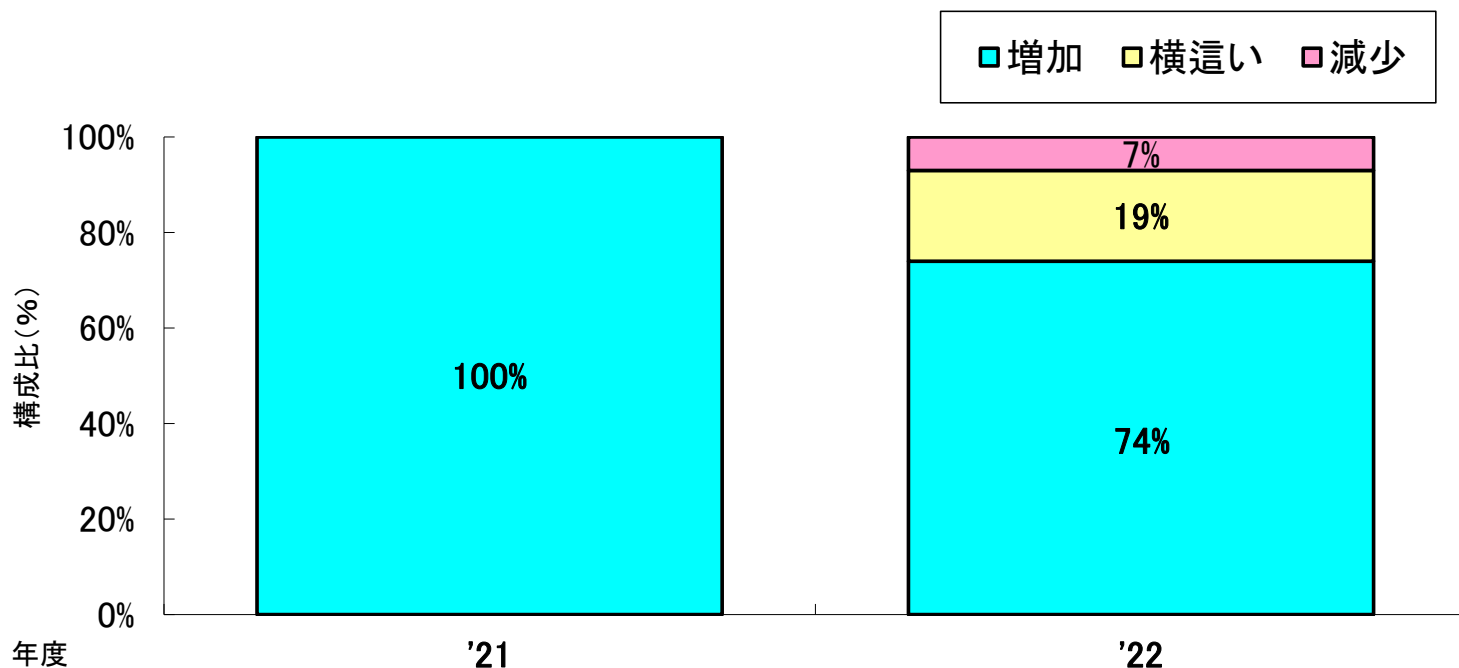
③ 住宅投資

21年度、22年度を通じて、横這いが大勢を占める。



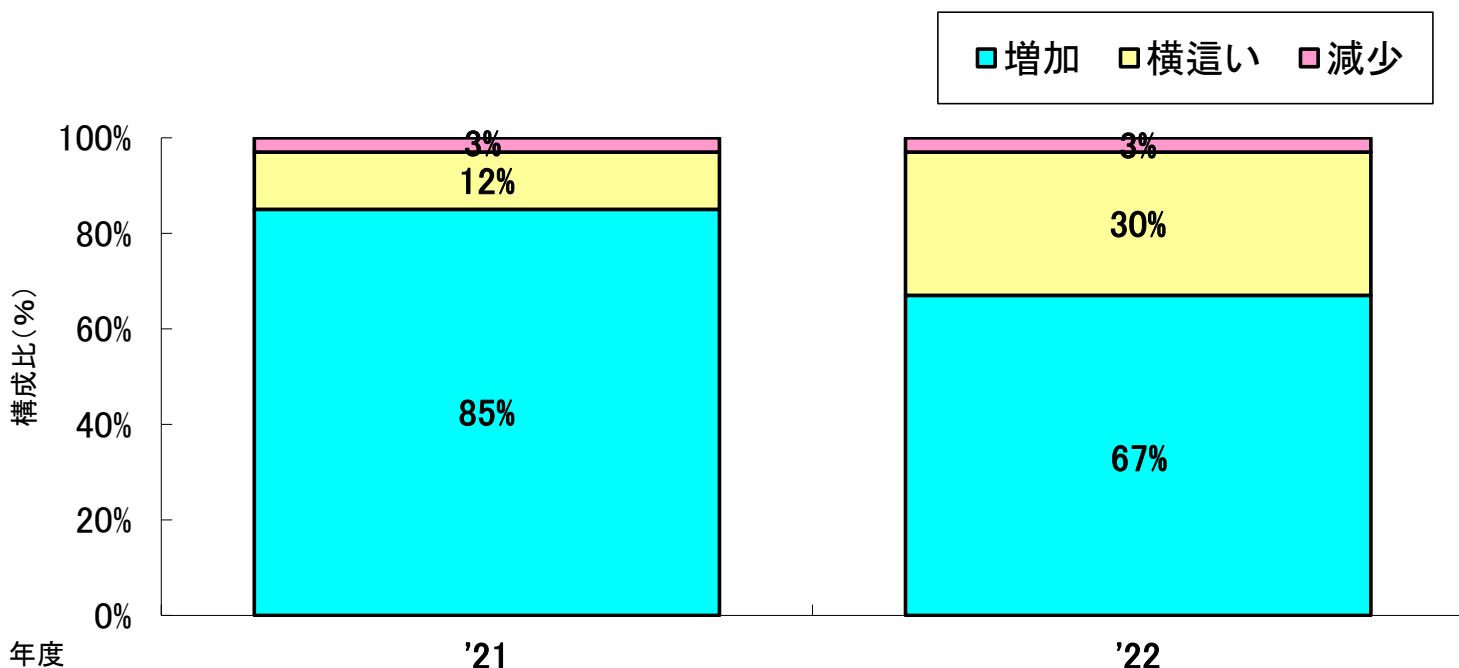
① 北米市場の動向

21年度は全て増加の見方、22年も増加が大勢を占める。



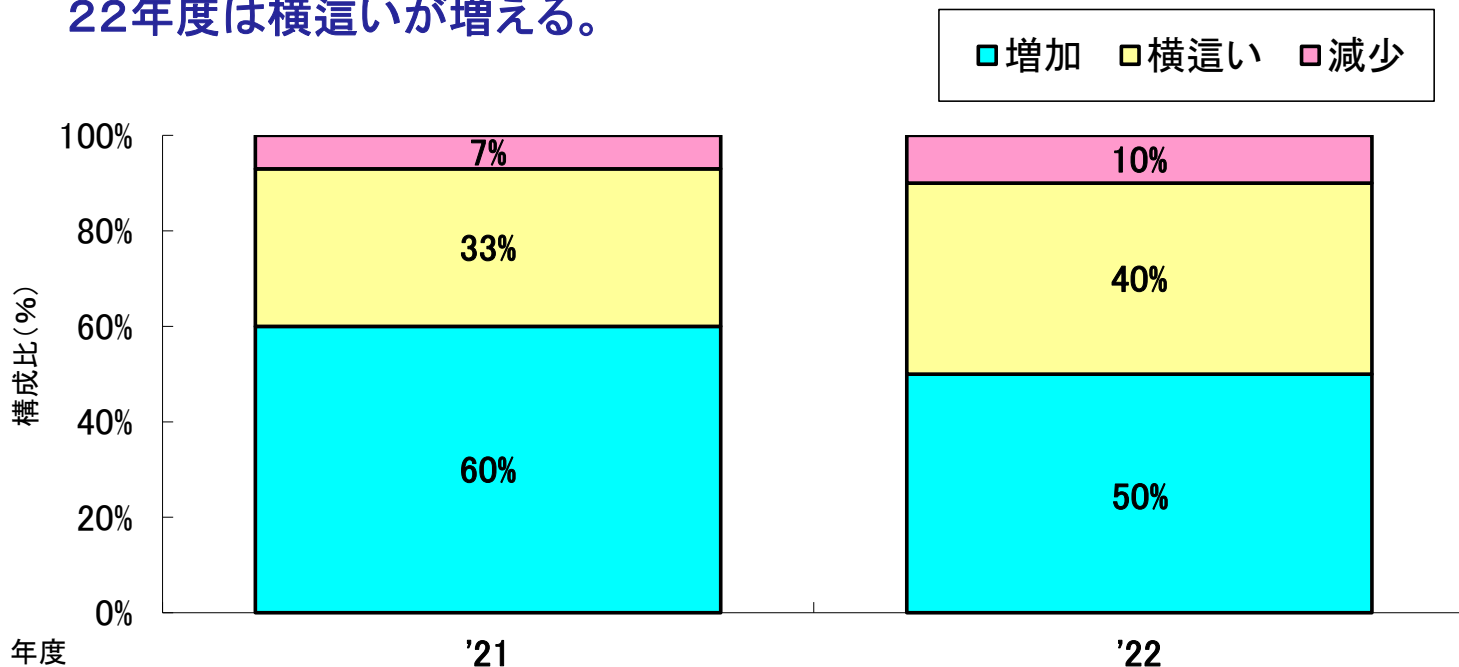
② 欧州市場の動向

21年度、22年度通じて増加が大勢を占める。



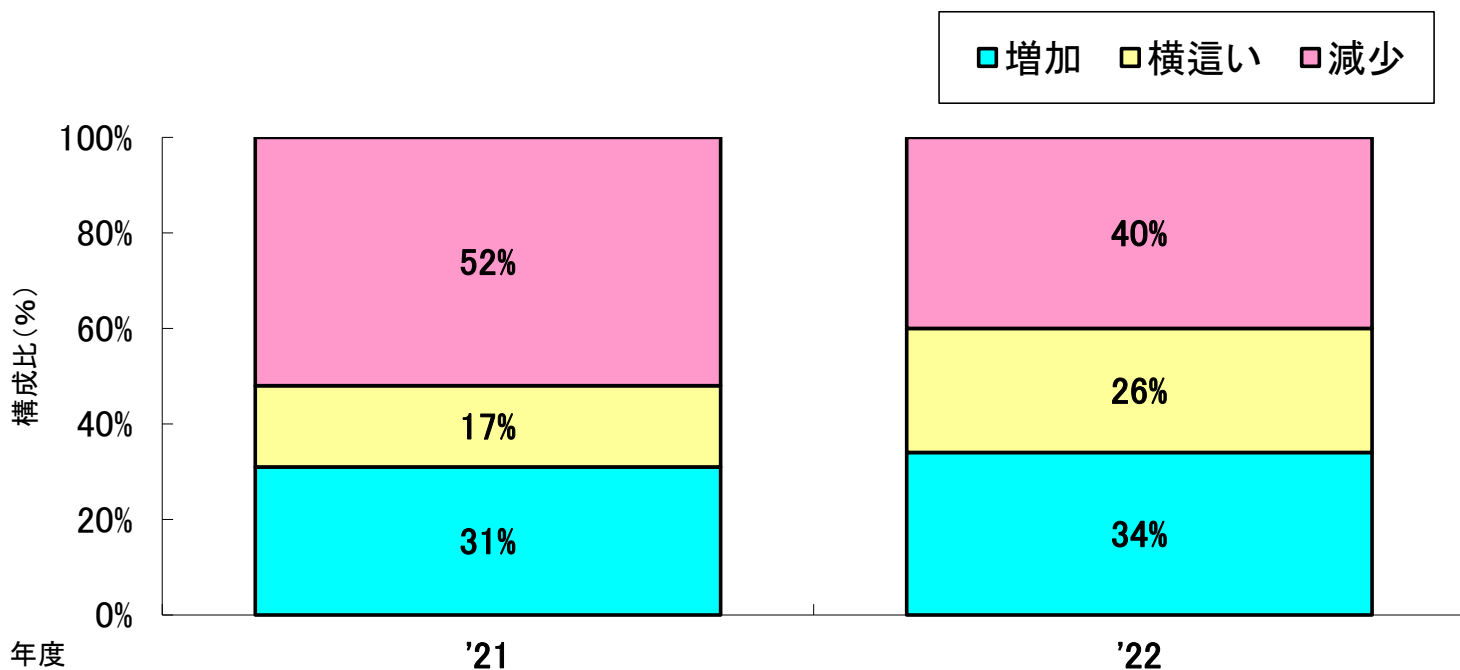
③中国を除くアジア市場の動向(含むオセアニア)

21年度、22年度通じて半数以上が増加の見方であるが、22年度は横這いが増える。



④中国市場の動向

21年度は過半が減少の見方。22年度は横這いの見方が増える。

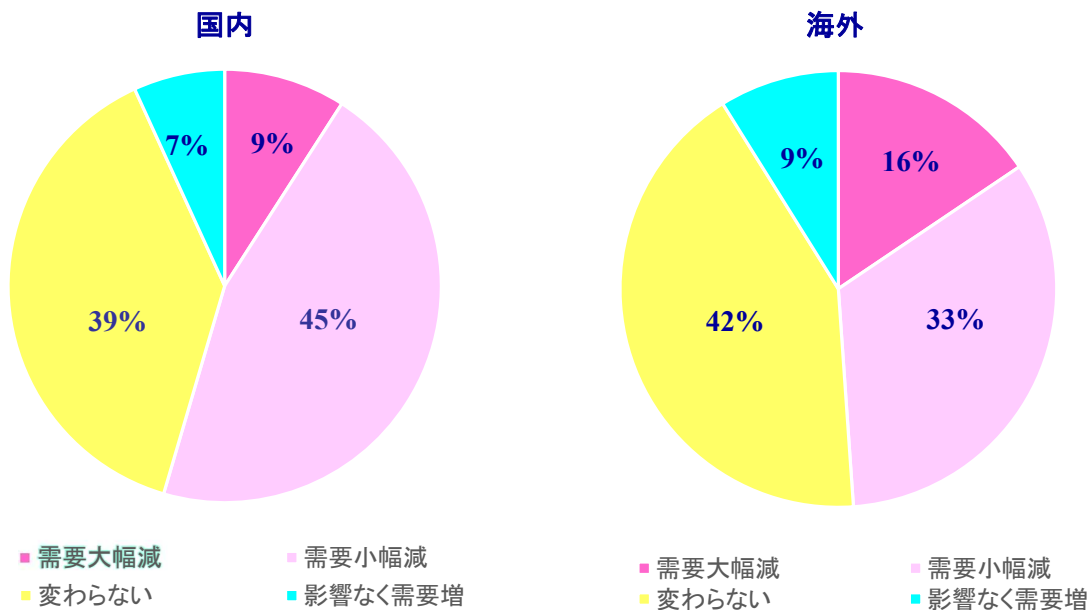


2. 会員の見方

(3) コロナが再拡大した場合の影響及びその度合い

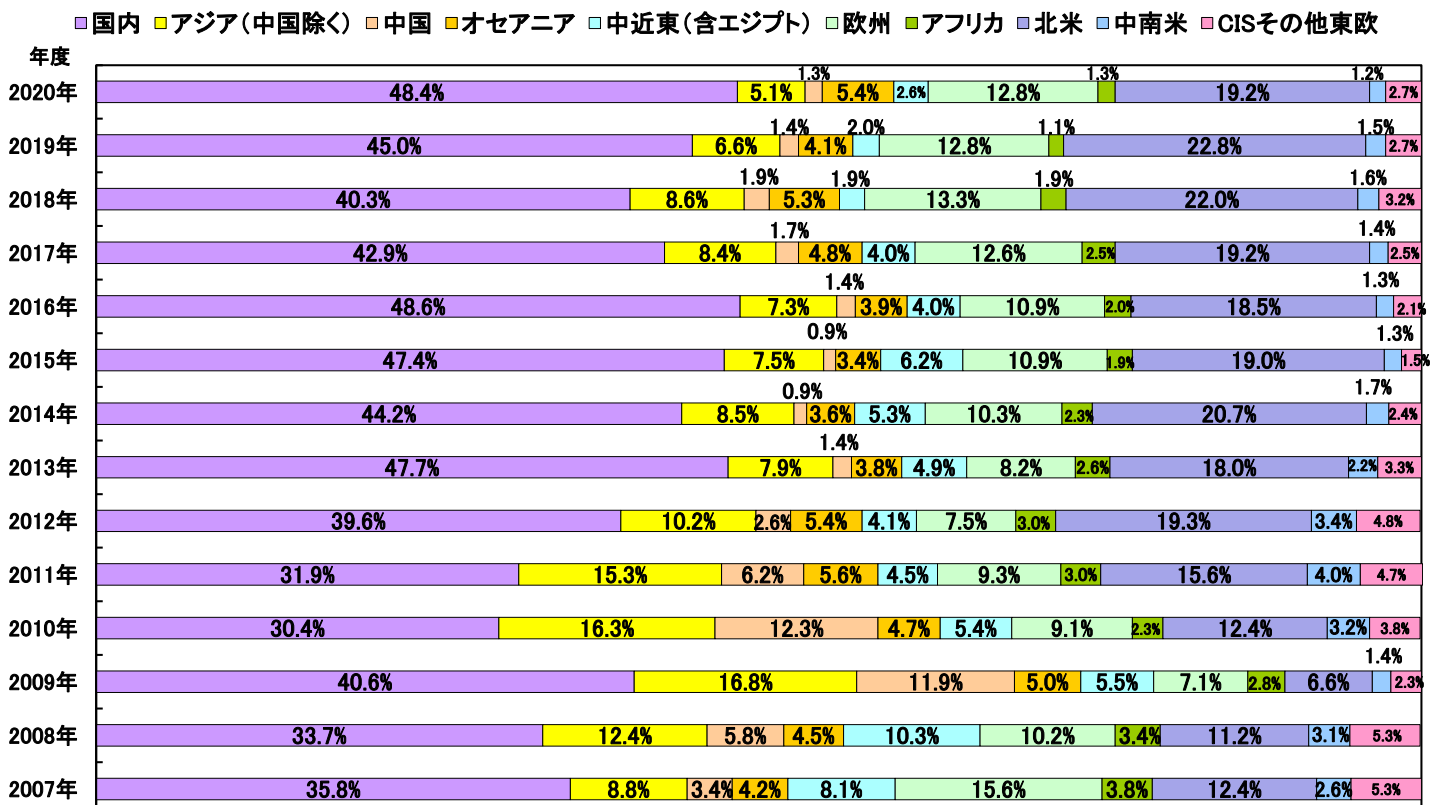


調査結果



【参考数値】仕向先別出荷金額

① 構成比推移: 2007~2020年度



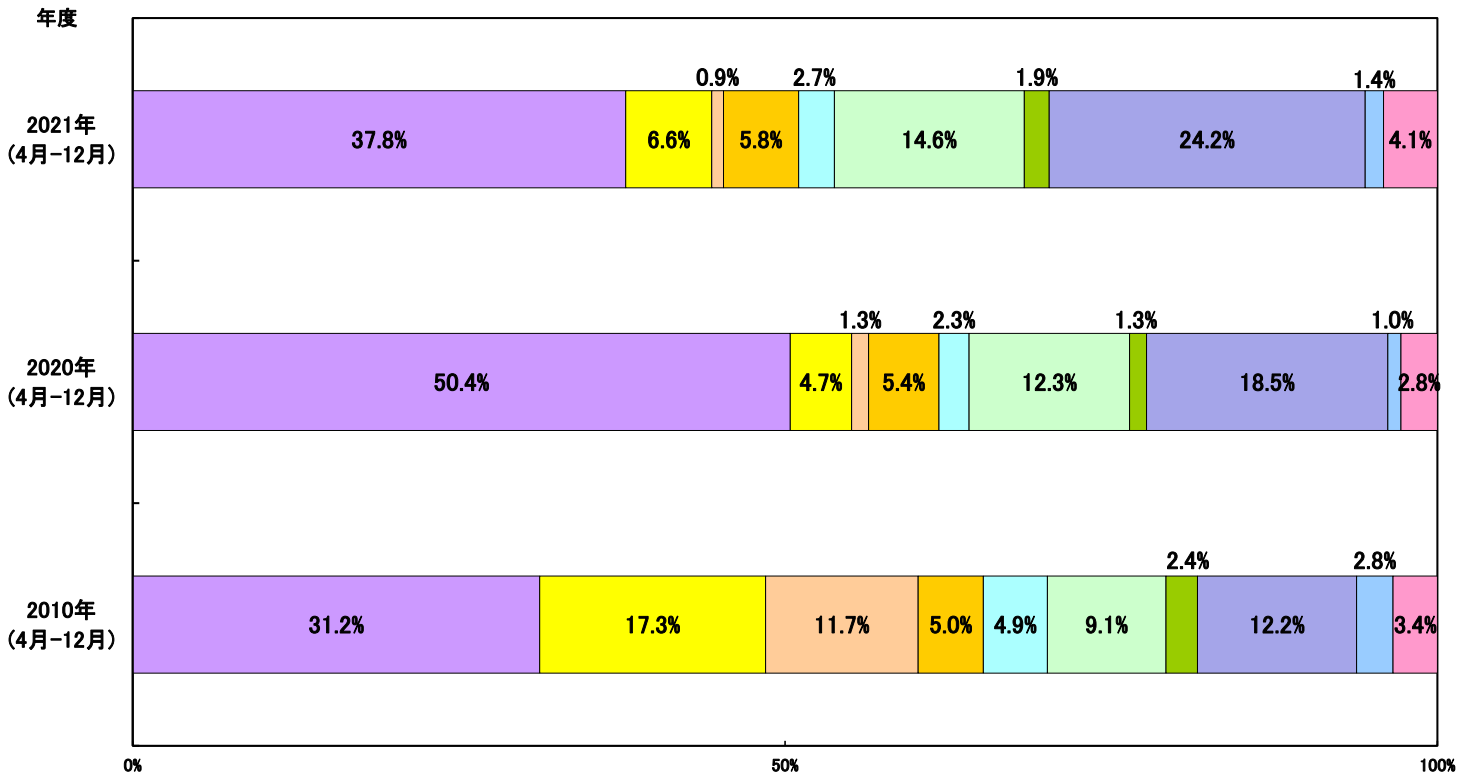
* 9機種(油圧ショベル、ミニショベル、トラクタ、建設用クレーン、道路機械、コンクリート機械、基礎機械、油圧ブレーカ圧砕機、その他建設機械)の出荷金額ベース(コンポーネント含まず)
出典: 建機工自主統計

【参考数値】仕向先別出荷金額

②構成比推移:2021年4月-12月

2020年度は国内比率高まるも、2021年度は3大輸出先(北米・欧州・アジア)の比率が大きく伸張

■国内 ■アジア(中国除く) ■中国 ■オセアニア ■中近東(含エジプト) ■欧州 ■アフリカ ■北米 ■中南米 ■CISその他東欧

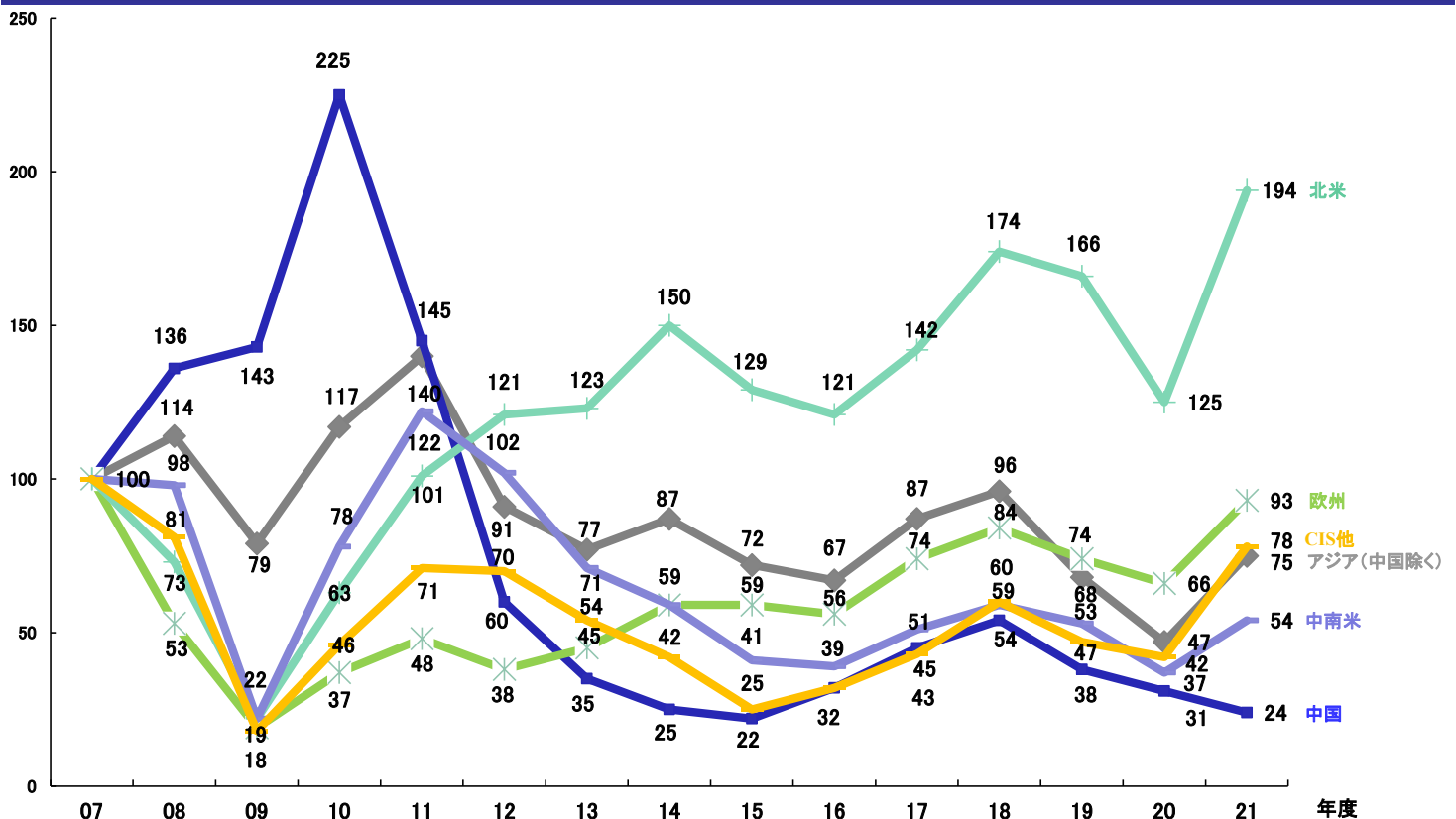


0% 50% 100%
 * 9機種(油圧ショベル、ミニショベル、トラクタ、建設用クレーン、道路機械、コンクリート機械、基礎機械、油圧プレカ圧砕機、その他建設機械)の出荷金額ベース(コンポーネント含まず)
 * 2010年4~12月期は中国への比率が最も高かった年度の当該期間 出典:建機工自主統計

【参考数値】仕向先別出荷金額

③2007年度を100とする指数の推移

北米向けは好調、中国向けはさらに減少へ



* 9機種(油圧ショベル、ミニショベル、トラクタ、建設用クレーン、道路機械、コンクリート機械、基礎機械、油圧プレカ圧砕機、その他建設機械)の出荷金額の指数(2007年出荷金額を100とする)
 注)2021年度は4~12月の仕向け先実績より予測 出典:建機工自主統計